

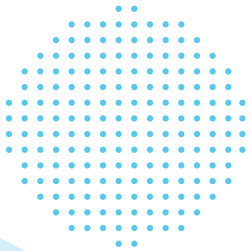
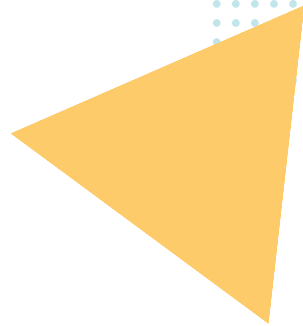
岐阜大学  
地域科学部・地域科学研究科

Gifu University  
Faculty of Regional Studies

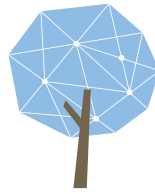
FOREST



F



R



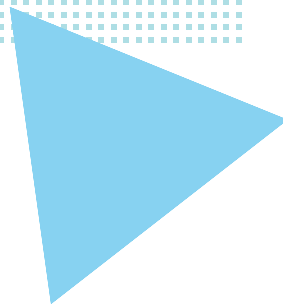
O



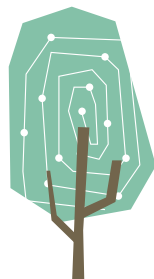
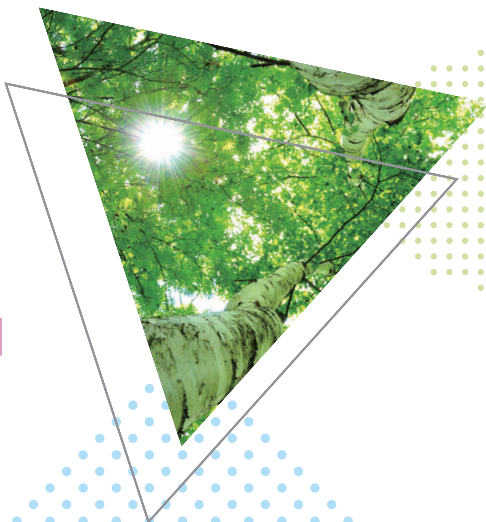
E



S



T



岐阜大学

# contents

■ 学部長からのメッセージ	1
学部案内	2
学科紹介	3
カリキュラムの概要	4
授業科目一覧	5
社会活動演習	6
地域学実習	7
専門セミナー	8
研究科案内	10
専攻紹介	11
カリキュラムの概要と授業科目一覧	12
■ 進学・就職	13
■ 地域科学部の活動と成果	16

FACULTY OF REGIONAL STUDIES  
FOREST  
GIFU UNIVERSITY

地域科学部



～学部長からのメッセージ～

## 「知の森」を一緒に探検しましょう!

岐阜大学地域科学部は、1996年に日本で最初に「地域」という名称を冠して設置された地域系学部です。地域社会と人間文化が抱える課題を発見し、その解決を図るために、「地域」をテーマとして、人文・社会・自然科学の多様な専門領域による文理横断的・学際的な教育研究が行われています。そして、深い洞察力と的確な判断力を備え、地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。地域との連携を含むその教育研究活動は、地方創生と地域発展の鍵として社会的に大きく期待されています。

その基盤となるのが、さまざまな分野の知見を幅広く学べて、また、同時に特定分野の専門性を高めることができる総合的カリキュラムです。学科は、地域政策と地域文化の2つがあります。その所属は、学科の目的と開設されている授業科目から学習計画を立てて、2年前期に自ら決めます。履修の指針として、「産業・まちづくり」「自治政策」「環境政策」「生活・社会」「人間・文化」の5つの履修系統が用意されています。専門性の幅を広げるために、どれか1つの履修系統の授業科目を中心に、他の授業科目からも選んで幅広く学びます(【横軸の学習】)。そして、5学期の長期に渡る専門セミナーの連続的履修(2年後期～4年後期)と卒業研究(4年後期)により、特定分野を深く学んで専門性を高め(【縦軸の学習】)。それまでに、初年次セミナー(1年前期)、基礎セミナー(1年後期～2年前期)などで基礎的な学習をすることにより、その開始に備えます。その他にも、「地域研究入門」(1年前期)による導入教育、「社会活動演習」(1年前期)での体験学習、「地域学実習」(3年前期)におけるフィールドワークによる調査、報告書の作成とプレゼンなどの実践教育により、多くの経験を積んでいきます。以上、これらの基礎科目、実習系科目とともに、【縦軸と横軸の組み合わせによる座標系学習】によって、多様な分野を幅広く、特定分野を深く学ぶことができるのです。そのため、真剣に取り組めば、豊富な知識を背景とした多面的な思考力、行動力、コミュニケーション能力などが確実に身に付きます。その他、1年間の海外留学(2年後期～3年前期)をしながらも、4年間で卒業できる「国際教養プログラム」も用意されています。

大学に入学してからは、4年先のこと、学年が進行して行くにつれては数年先のことを時々思い描いてみましょう。大学を卒業したあと、あなたは、どこで何をしているのでしょうか。または、どのようなことをしたいと考えますか。社会に出ると、時間に追われることが多くなります。しかし、大学生には自由に使える時間がたくさんあります。しかも、その自由な時間は、とてもゆったりとした速度で流れます。そのようなとき、時間には限りがあることを忘れてしまい、ただ無為に過ごしてしまいがちです。私たちは、有限の時間の中で生きています。しかし、「今」という時間は、今この瞬間にのみ存在します。それは、ただ過ぎ去るばかりで、二度と戻って来ることはありません。そのため、現在を思い描いた未来へとつなぐには、これから始まる「今」をどのようにして過ごすのか、そのことがとても大切になってきます。

地域科学部では学生と教員の距離が近く、教員は学生を温かく迎え入れ、情熱を持って指導に当たり、そして共に学びます。あとは、みなさんのやる気次第です。教員は、人文・社会・自然科学の多様な学問領域から構成される学際的な専門家集団です。何かについて知りたい、学びたいという熱い思い、または、強く関心を抱く話題を遠慮せずに、教員に直接ぶつけてください。この学部は、自分自身と向き合い、自分が学びたいことを見つけて、そして、深めることができる「知の森」(FOREST = Faculty of Regional Studies)なのです。あなたも、この「知の森」を私たちと一緒に探検してみませんか。



岐阜大学地域科学部長  
岐阜大学地域科学研究科長

洞澤 伸



# 地域科学部

## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

#### ■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

#### ■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

## Curriculum Policy

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

一定の分野に対する専門性を高めるため、また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して学ぶことができるように、学習の指針として5つの履修系統（産業・まちづくり系統、自治政策系統、環境政策系統、生活・社会系統、人間・文化系統）を提示します。これらの5つの履修系統に即した学習を促すことにより、地域の個別課題に対する分析力および対応力を育てます。また、多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際教養プログラムなどで国際的な視野や多様な地域の文化への関心を培います。

## Diploma Policy

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋(全文は本学部HPをご覧ください)



# 学科紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすくして平和で文化的な地域社会を創出できる人材の育成を目的とした、日本で初めて「地域」という名称を冠した学部です。学ぶ範囲は広くかつ多様ですが、2年前学期からは地域政策学科、または地域文化学科に所属し、専門性を高めて行きます。中心的に学びを深める5つの履修系統に軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



## 地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

### 産業・まちづくり系統

地域経済の理解のためには、地域の産業や経済状況を把握しなければなりません。同時に日本や世界の経済動向や、経済システムを理解することも必要になります。本履修系統では、地域から世界までを見すえた視点で、産業構造や経済システムの理解を深め、時にはフィールドワークを行い、政策立案の基礎となる専門的な能力を獲得する教育内容を構成しています。

### 自治政策系統

分権時代の地域の政策課題は多様化しており、1つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本履修系統では、行政学、財政学、法律学など、問題解決の基礎となる専門分野をバランスよく配置して、住民参加のあり方やNPOとの協働など、地域の新しい課題解決のための方策について学び、色々な課題に積極的に取り組む人を育成する教育内容を構成しています。

### 環境政策系統

本履修系統では、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基礎的な学力を身につけ、自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

## 地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する的確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

### 生活・社会系統

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本履修系統では、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

### 人間・文化系統

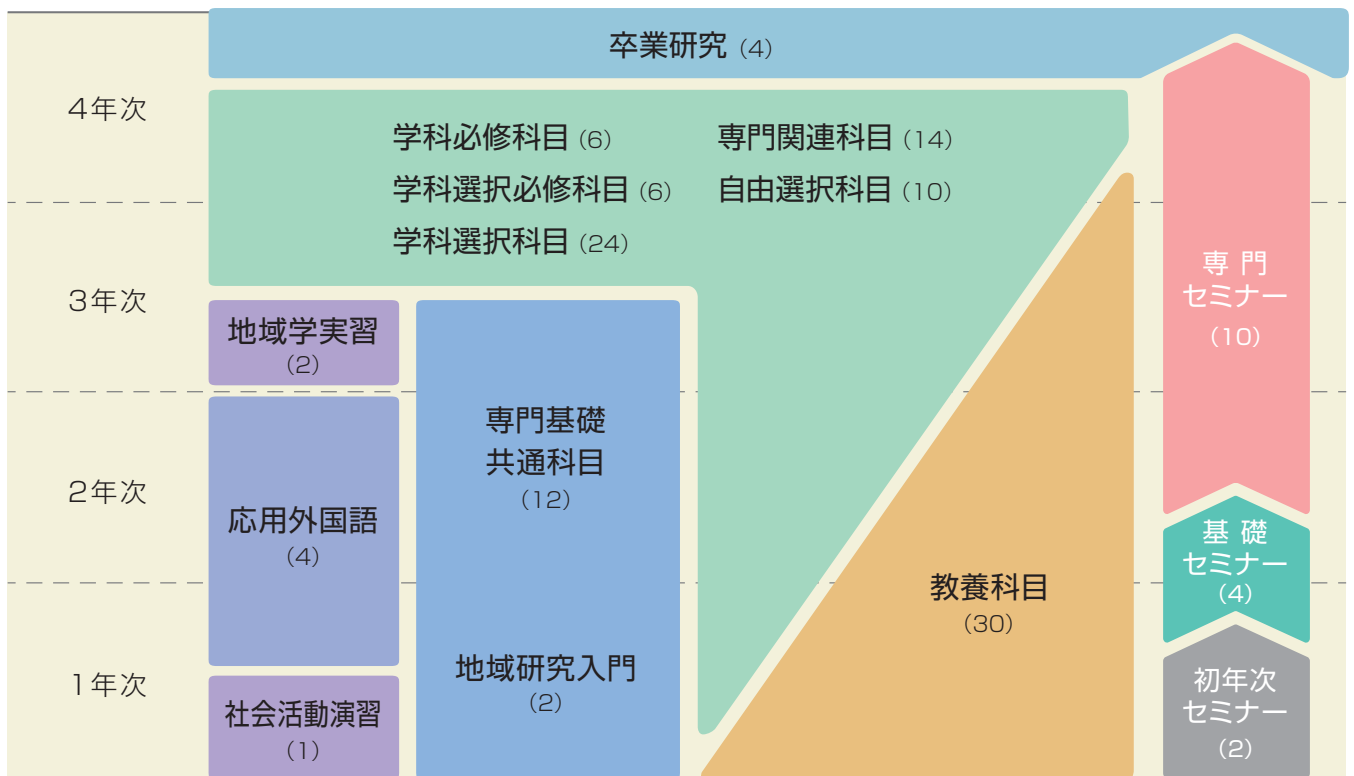
地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本履修系統は、この視点にもとづいて、グローバリゼーションの時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。



# カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

## 地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



( )は卒業に必要な修得単位数

## 国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよび異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。外国人留学生には、日本に関する知識を深める科目群Dが用意されています。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準(TOEFL、IELTSなど)に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度が8名、2018年度は11名、2019年度は11名に上ります。



# 授業科目一覽

地域科学部

学科		地域政策学科			地域文化学科	
履修系統		産業・まちづくり	自治政策	環境政策	生活・社会	人間・文化
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養) 地域研究入門 社会活動演習			応用外国語	基礎セミナー
	共通科目専門基礎	地理学 政治経済学 現代経済学 グローバルゼーション概論	法学	記述統計学 微分積分I・II 線形代数I・II 物理学I 化学I 生物学I	現代社会概論 教育・心理学 人間発達概論 近・現代史	哲学 文学 言語学
専門科目	必修	地域計画論	地域づくり論	推測統計学	社会調査法	ジェンダー論 言語文化論
	選択必修	計量経済学 日本経済論 地域経済論 経営学	憲法 行政法 民法 行政学	物理学II 環境物理学I 化学実験 都市環境工学 環境調査法	地域社会学 地域史 メディア論 文化人類学	文化基礎論 社会哲学 日本文化論 ヨーロッパ文化論 アメリカ文化論 アジア文化論 社会言語学
	選択	国際経済論 比較経済体制論 地域産業論 経済地理学 地域振興論 地域解析学 経済政策 社会政策論 労働経済学 消費経済論 会計学 マーケティング論 金融論 公共経済学 環境経済学	地方自治法 労働法 現代政治学 政治過程論 国際関係論 財政学 地方財政論 企業法 刑法 裁判法 環境法	微分方程式 応用解析学 数理計画法 物理学III 環境物理学II 環境物理学III 化学演習 物理化学 生物学II 植物生態学 動物生態学 環境保全論I 環境保全論II システム工学 居住環境と心理	生命倫理学 障害者福祉論 健康教育論 コミュニティ論 地域自治論 社会福祉原論 地域福祉論 老人福祉論 生活支援論 環境教育論 ジャーナリズム論 家族社会学 労働社会学 インターネット社会学 ジェンダー史 コミュニケーション論	言語と社会入門 口頭表現技法論 近・現代思想論 環境思想論 地域文化論 文化受容論 境界文化論 言語理解論 文献学 文化思想史 科学思想論 社会文化論 文化解釈論 表象文化論 文学批評論 言語意味論 言語生活論 博物館学

		科目群A	科目群B	科目群B	科目群D
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語I~IV 応用外国語A/B			
	基礎セミナー	言語と社会A/B			
	専門基礎共通		物理学I 生物学I 哲学	記述統計学 微分積分I 線形代数I グローバルゼーション概論	
専門科目	地域政策学科		日本経済論 憲法 化学実験	地域計画論 民法 物理学II 環境調査法 地域産業論 国際関係論 化学演習 生物学II 社会政策論 推測統計学 居住環境と心理	
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論	アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 社会哲学 社会言語学 文化受容論 言語理解論 社会調査法 メディア論 文化人類学 言語文化論 アジア文化論 ヨーロッパ文化論	現代日本の社会 近代化と日本人 日本文学概論 日本の文化芸術



# 社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

## 2020年度実施プログラム(指導担当教員)

- A: 裁判所・刑務所見学及びその成果発表(三谷 晋)
- B: 知的障がい者の授産施設: 第二いぶき(竹内 章郎)
- C: 市民ラジオ番組の制作&番組企画・出演(野原 仁)
- D: 地域における子どもの居場所づくり(南出 吉祥)
- E: 子どもの自然体験教室のサポーター(稲生 勝)
- F: 岐阜市歴史博物館で作業する(加藤 公一)
- G: 名古屋証券取引所とIR エキスポ(三井 栄)



農業体験(販売)の様子



「子育て支援」イベントの様子

## 学生の声

2019年度入学 日比野 雅さん

社会活動演習では、岐阜市歴史博物館にて来館者への体験コーナーの補助や、バックステージの作業などを行いました。当初、博物館での作業ときいて、きっと大変な仕事ばかりだと思っていましたが、実際にやってみると思っていたよりも興味深くてやりがいのある楽しい活動でした。例えば、体験コーナーでそれぞれの来館者に対してどう説明すれば岐阜の歴史について興味を持ってもらえるのか工夫して説明の仕方を変えたり、表に出ていない貴重な資料をベストな状態に保つため、保管庫をきれいに掃除する際、資料を見たりと、歴史が好きな私にとって、とても充実した活動でした。この社会活動演習を通して、この歴史博物館の長い歴史の中で多くの人々の苦悩と、そこから成し遂げられた変化・成長について学ぶことができ、また演習中に会った沢山の人達との交流など活動演習ならではの経験を積むことができ、とてもよかったと思います。





# 地域学実習

地域学実習は、3年生の前学期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の7プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。

## 2020年度実施プログラム(指導担当教員)

- 岐阜周辺における地域づくりの比較調査 (富樫 幸一)
- 障害者雇用と企業の社会的責任～福祉がつなく地域再生の挑戦 (小西 豊)
- 議会改革を推進する人びととその理由・背景調査 (三谷 晋)
- 都市近郊にある里山の現状を知り、その利用について地域活性化の視点で考えてみる (肥後 睦輝)
- 景観マップの作成 (合掌 顕)
- 地域社会の企業・行政組織・NPOの参与観察  
ー インターンシップを通して (伊原 亮司/宇山 翠)
- 移住者の暮らしと「地域おこし」から見る地域のあり方 (堀江 未央)
- 歴史史料の整理と扱い方を学ぶ (芹口 真結子)



垂井宿のまちづくり調査のための打ち合わせ風景



白川郷での聞き取り調査の様子

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけではなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

## 学生の声

2017年度入学 田村 堅吾さん

私たちの地域学実習では「ぎふメディアコスモス」を対象に、新しい図書館などの複合施設における市民の利用状況や活動状況、なぜメディアコスモスには人が集まるのか、岐阜市で諮られている「中心市街地活性化計画」での実績などをテーマに、アンケートやインタビューなどを実施し、調査を行いました。

インタビュー対象は幅広く、メディアコスモスの来館者や職員の方々のみならず、市のまちづくり推進部の職員の方や、メディアコスモスで活動している各団体様、メディアコスモスの周辺に店舗を構える方々など様々な立場の方に聞き取りを行うことで多角的な視点でメディアコスモスの全体像を明らかにし、調査を進めつつ現状への評価と今後の課題についての考察を行いました。

これまでに幾度となく利用していたメディアコスモスでしたが、この調査を通して普通の図書館ではなく中心市街地活性化計画の一端を担っている重要な施設であるという新たな視点を得ることが出来ました。またメディアコスモスに深く関わる方々の生の声を聞くことで、メディアコスモスのリアルを知ることが出来て、より一層親しみを持つようになりました。



アンケート調査の様子  
(2019年9月1日、みんなの森 ぎふメディアコスモス)



# 専門セミナー

2年次後学期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。少人数で開講され、各教員それぞれの専門分野に関連する領域について、学んでいきます。学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の後学期まで継続して、行われ、卒業研究も行っていきます。

各専門分野によって、運営形式はこの専門セミナーでの学びを基に様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を行うため、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多種多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

## 富樫 幸一セミナー(経済地理学)

商店街や景観系のまちづくりを学んでいるセミナーです。2・3年生の時は、例えばJ.ジェイコブズの都市論や、「創造都市のための観光振興」といった本を輪読しています。3年生の地域学実習で最近は、郡上八幡で元気な若手の人たちのコミュニティや、池田町の地方創生とまちづくり、岐阜市の金華地区に新しくできたカフェやギャラリーが伝統的な町家をどう活かしているか、などをテーマとしてフィールドワークをしています。4年生の卒論でも、商店街の中でリノベーションしてできたユニークな店舗や、都市や農山村に登場してきているゲストハウスなどを取り上げました。地域学系の全国の大学のインターユニ・フィールドワーク・プログラムでは、徳島県上勝町や函館市で合同調査をしてきました。また、観光まちづくり(DMO)で知られる「長良川おんぱく」にも、毎年、プログラムを企画して参加しています。



## 十二村 佳樹セミナー(都市環境工学)

本セミナーでは、(1)熱大気汚染問題である都市ヒートアイランド現象、(2)社会的背景を考慮した都市形態、という2つを主たるテーマとした研究活動を行っています。ヒートアイランド現象とは人工被覆・人工排熱の増加を主要因とする都市の温暖化のことです。これによる問題点として都市大気汚染や夏季エネルギー消費の増大、熱中症の増加等が挙げられ、その緩和が必要であると考えられています。また、少子高齢・人口減少を迎えた今、将来的にもエネルギー供給処理等の都市機能を効率的に維持管理しううえで享受し続けることが可能であり、かつ居住環境にも満足できる都市形態について検討することも必要であると考えられています。これらについて都市環境工学という見地から取り組み、熱的に安全で社会的要求にもこたえることが可能な都市空間の実現に資する知見を得ることを目標としています。



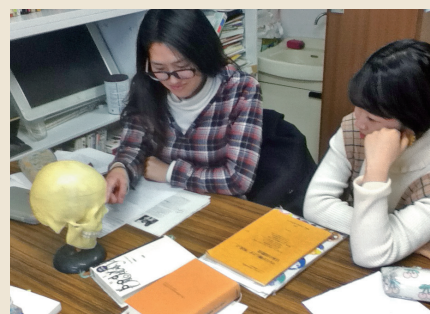
## 笠井 千勢セミナー(英語教育学)

私のゼミでは、第二言語習得論をテーマに調査を進めています。ほとんどの人が母国語の他に外国語を学習した経験があります。そして、上達した人、うまく学習が進まなかった人、その外国語を好きになった人、嫌いになった人など、異なる経験を持っていると思います。私のゼミを希望する学生は全員、第二言語学習において(何でこんなことになるんだろう?)という疑問を持っています。そして、自分自身が第二言語を学んだときに感じた不思議や、学習を妨げてしまった要因を追求していきます。また、留学経験者は二ヶ国語を習得したときに感じる違和感(?)について調査します。これは二言語を習得した時に起きる認知変化によるもので、言語が思考に影響を及ぼすためと言われています。ゼミ生の中には、国際学会で研究結果を発表する学生もいます。英語で発表しますので、世界各国から集まる研究者に情報を伝えることができ、意見や助言をもらうことができます。



## ジョン・G・ラッセルセミナー(文化人類学)

「グローバル化しつつある現代社会と多様性に溢れている21世紀の世界に我々はどう対応できる?」「自分とは異なると思われる人間—つまり「他者」—を理解するためにどうすればいい?」これらの質問に答えるにあたって、いわゆる「異文化」と「他者」という概念を再考察する必要があります。というのは、大体、日本では、「異文化」という言葉を聞く時、多くの人々が外国の状況を想像していますが、実際、「異文化」は外国の文化に限らず、日本を含め、各国が国内にも数多くの「異文化」と共存しています。また、その異文化には、世界中の国々は自国内に住む女性や男性その他のジェンダーの文化や、障がい者の文化も含まれています。本セミナーは、欧米と日本に於いてそれぞれの集団(人種、民族、ジェンダー、性的指向)とその文化が、学術機関や大衆文化、メディア、その他の社会制度を通してどのように伝えられ、表象され、理解されているかを考察し、我々が思う「異文化」と他者がどのように作り上げられているかを鋭い洞察力により再考する学生が育つことを目指しています。



### 学生の声

2018年度入学 河出 ひなのさん

私は伊原ゼミで社会学を学んでいます。「社会学を学ぶ」といっても、いきなり難解な理論や思想を学ぶのではなく、自分の身近な事象や出来事から「社会」の分析・考察へと発展させていきます。ゼミでは、専門書の輪読を踏まえ、学生や先生と議論を交わしながら、自らの「社会の見方」を鍛え上げていきます。他者との議論を通して、自らの意見を主張し、同時に、自らの意見を客観視することが求められます。そして、他者の視点を組み入れつつ、自分の興味関心を絞り込んでいき、最終的に卒業論文を完成させます。大学での学びは、とりわけゼミでの学習は、高校までの「お勉強」とは全く異なります。自分の興味のある分野をとことん突き詰めることができるのは勿論のこと、自分が疑問に思ったことを蔑ろにせず、「常識」とは異なる見解であっても軽視せず、「些細な違和感」から社会を立体的に捉え直すことができるので、とても新鮮に感じられると思います。



### 学生の声

2017年度入学 中村 真子さん

私は、牧秀樹研究室で言語学分野の研究をしています。世界にある様々な言語の文法に着目し、その事象から、人間が文を構築する際に、脳がどのように機能しているのかを解明します。一見全く異なる言語でも、色々な例文を分析してみると、その背景にあるセオリーは全く一緒であるということがあります。実は、日本語と英語の関係も然りです。ここがこの分野の研究の非常に面白いところで、なかなか腰が下がらない語学学習も、一気に敷居が下がるものです。現在私は、小学校や中学校の教科書を対象とした研究を行っています。日本にとどまらず、中国、韓国、米国の教科書も分析し、日本の文法教育や英語教育の現状、今後についてまとめています。文法研究は、本国でもここ100年内で様々な岐路を経ており、その研究成果が現代国語にも反映されています。近年特に英語教育が強化される中、改めて本国の母国語教育に立ち返り、母国語の文法教育やその意義について問うことで、よりよい語学教育の姿勢とは何かを追究しています。





# 地域科学研究科

## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

#### ■ 教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

#### ■ 求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・ これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・ 自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・ 地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・ まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・ さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・ 国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

## Curriculum Policy

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・ 人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

## Diploma Policy

### ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

# 専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



## 地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

### ● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

### ● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

### ● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

## 地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

### ● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

### ● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。



# カリキュラムの概要

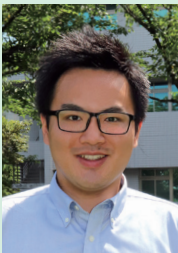
- **特別演習 I・II・III・IV** : 指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究** : 指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目** : 地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目** : 各教育研究領域ごとに4~14の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜経済大学)の単位も認められます。

## 授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
選択必修科目	理論経済学特論 地域産業特論	行政法特論 行政学特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 文化解釈論特論	
自由選択科目	計量経済学特論 比較経済体制論特論 経済地理学特論 中小企業論特論	憲法特論 社会政策特論 民法特論 地方財政論特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化学特論 環境計算化学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論	地域社会学特論 社会福祉論特論 労働社会学特論 歴史学特論 現代史特論 地域福祉論特論 社会人類学特論 文化人類学特論	日本思想史特論 生命倫理学特論 自然哲学特論 健康教育学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 英語圏文学特論	心理学特論 言語文化論特論 言語教育学特論 ドイツ文学特論 社会言語学特論 中国文学特論 中国語学特論
地域科学特別講義 I・II・III・IV・V・VI						
特別演習 I・II・III・IV			特別研究			

## 学生の声

2019年度修了 吳 文亮さん



私は、中国江西師範大学国際教育学部英語学科を卒業し、日本に来ました。中学から大学卒業まで10年英語を学び、英語能力を測定するために、大学入試英語テストやTOEIC公開テストなど様々な英語テストを受験してきました。しかしながら、長時間のテストにおいては、時間が経てば経つほど、気持ちが落ち着かなくなりがちで、本当の英語能力は発揮できないのではないかなと思うようになりました。また、英語作文テストにおいても、採点者にとっては、客観的に採点することは相当大変でしょう。

そこで、短時間(5分間程度)で英語学習者の英語能力を正確に測定できるテスト(最小英語テスト、The Minimal English Test=MET)を開発しようと思い、地域科学研究科に来て、研究を行っています。

さらに、現在は、英語だけではなく、他の言語(例えば、中国語)においても、同じような機能を持つテストができないか、検討に入っています。多くの外国語学習者が落ち着いてワクワク受験できるように、一所懸命研究に励んでいます。

## 進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2019年度卒業生では全就職決定者116名のうち36名(31.0%)、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業への就職は多いものの、卸売業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していることが挙げられます。

このように卒業生たちがさまざまな業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学部が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育てる教育)のひとつの成果であるともいえます。

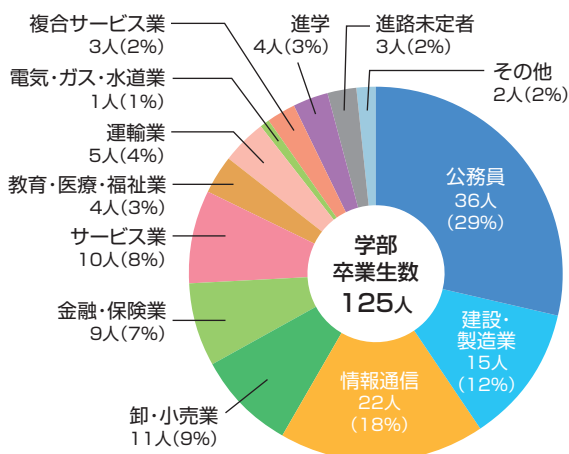
就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみても高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。近年では、全国的に就職状況が好転しており、本学部のそれも非常に良好な状況が続いています。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2019年度卒業生では97.5%となっています(2015年度から19年度の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は平均で96.9%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、そのほかにも、学部として学生の活動をサポートするために指導教員をはじめ、就職担当教員の配置によって学生からの相談に迅速かつきめ細やかに対応していること、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施していること(就職活動を経験した本学部学生の生の声が聴ける等)、数年に一度、卒業生が就職した主な企業に全教員が手分けして出向き、企業担当者から卒業生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討していること、などの取り組みがなされています。さらに卒業後のサポートもしています(就職後のトラブル、転職や仕事上の悩み等の相談や情報提供をしています)。

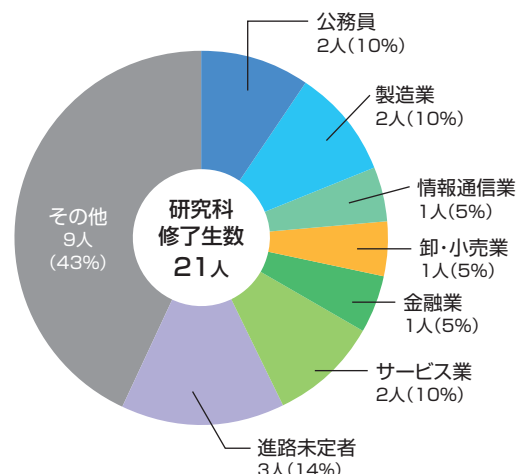
今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人材を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

大学院の就職状況に関しては、大学院生には留学生、社会人が多く、留学生は修了後帰国するケースが多いことなどもあり、就職希望者自体が少ないのですが、2019年度に関していうと、就職希望者12名に対し就職決定者9名で75.0%の決定率となっています(修了生数21名)。近年では、留学生でも日本国内で専門家として就職をする場合も多くなってきています。

2019年度 就職状況(学部)



2019年度 就職状況(研究科)





# 進路

## 学部 2019年度卒業生進路状況

(2020年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

<b>公務員(36)</b> 厚生労働省 恵那市 国土交通省 愛西市(2) 総務省 柏崎市 法務省(2) 岐南町 岐阜県(14) 池田町 愛知県(2) 岐阜市(4) 名古屋市 各務原市 一宮市(2) 土岐市	<b>建設・製造業(15)</b> (株)パナホーム愛岐 レシップホールディングス(株) ウッドホーム(株) 中央精機(株) イチビキ(株) 天龍ホールディングス(株) (株)コムラ 豊田合成(株) (株)技術評論社 (株)ディーエイチシー エーエスペイント(株) (株)マキテック ヤマザキマザック(株) (株)フロウエル (株)デンソー	<b>情報通信(22)</b> (株)サーベイリサーチセンター エックスサーバー(株) (株)セイノー情報サービス シーシーエヌ(株) (株)ソフィア総合研究所 ユニアデックス(株) (株)テクノア (一財)岐阜県市町村行政情報センター (株)ドコモCS東海 岐阜新聞社 (株)ミロク情報サービス 住友電工情報システム(株) (株)豊通シスコム 西尾張シーエーティーヴィ(株) NTT西日本 東海ソフト(株) (2) TIS(株) 名古屋テレビ映像 アビームシステムズ(株) 他1件 エイムネクスト(株)
<b>卸・小売業(11)</b> (株)キタガワマルカネ (株)アルペン (株)サンゲツ (株)駿河屋魚一 (株)ジュピターコーポレーション (株)良品計画 (株)明治フレッシュネットワーク DCMカーマ(株) ユアサ商事(株) トヨタカローラ愛豊(株) (株)BANKANわものや	<b>サービス業(10)</b> 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (株)新東通信 アクセンチュア(株) (株)バルセロナ (株)物語コーポレーション 自営業 (株)JTB (株)プラス サン・ワード(株) あいぎ行政書士事務所	<b>運輸業(5)</b> (株)フジドリームエアラインズ JR東海旅客鉄道(株) 岐阜乗合自動車(株) (2) 中部国際空港(株)
<b>金融・保険業(9)</b> あいおいニッセイ同和損保 岐阜信用金庫 (2) 愛知県信用保証協会 知多信用金庫 丸三証券(株) 第一生命 岐阜市信用保証協会 東京海上日動火災保険(株)	<b>教育・医療・福祉業(4)</b> 朝日大学 JA岐阜厚生連 (一社)岐阜総合検診センター 岐阜県国民健康保険団体連合会	<b>複合サービス業(3)</b> 西美濃農業協同組合 全国農業協同組合連合会 岐阜県本部 大学生協事業連合
<b>電気・ガス・水道業(1)</b> ジェイエイトービス(株)	<b>進学(4)</b> 岐阜大学地域科学研究科(2) 一橋大学大学院 海外の大学	

卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数)
125名	119名	116名	4名	3名	2名	97.48%

## 研究科 2019年度修了生進路状況

(2020年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

<b>公務員(2)</b> 岐阜県 関市	<b>製造業(2)</b> アピ(株) (株)日東	<b>情報通信業(1)</b> (株)EDUCOM	<b>卸・小売業(1)</b> 三起商行(株)	<b>金融業(1)</b> 中国交通銀行	<b>サービス業(2)</b> 内モンゴル赤峰市紅山区検察院 広東熊貓国際旅行会社
----------------------------	---------------------------------	------------------------------	----------------------------	-------------------------	---

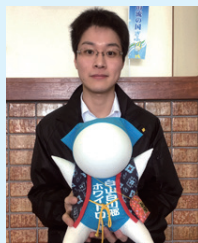
修了生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他 <sup>※1</sup>	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数)
21名	12名	9名	0名	3名	9名	75.00%

※1 社会人修了生を含む

# 先輩たちの声

## 地域科学部 卒業生

2016年度 地域科学部 卒業 村田 真二郎さん



### 岐阜県(現所属:飛騨保健所)

学部では合掌研究室に所属し、環境心理学を学びました。この研究室は普段の生活で何となく疑問に思っていることをそのまま研究できるため、集まる学生の興味・関心はさまざまです。同期の仲間はSNSについて、方向感覚についてなど非常にユニークな研究をしていて、毎回のゼミは仮説設定や考察の話で盛り上がりました。私は人間が持っている攻撃性が自動車運転時にどのように発現するのか、攻撃性の類型や変化量といった視点から調査を行い、卒業研究としてまとめました。実験や調査、統計分析は苦勞しましたが、仲間でお互いに助け合いながら研究を進めたことは、いい思い出となっています。

現在は飛騨地域を担当する保健所で保健師と共に、精神障がい者の支援をしています。業務を担当して2年目であり、まだまだ学ぶことは多いですが、この職場でしか経験できないような出来事が多く、楽しく業務に当たっています。業務内容は多岐にわたっていて、中には困難な事例もありますが、そのような事例に対応する時は、大学で身に付けた幅広い視野や考える姿勢が役に立っていると感じています。

## 大学院地域科学研究科 修了生

2014年度 大学院地域科学研究科 修了 張 訳丹さん



### 一般社団法人 ギフトピア

私は中国の出身で、張訳丹と申します。笠井ゼミの唯一の留学生でしたが、アットホームなゼミの雰囲気から寂しさや言葉の壁を感じず勉強に励むことが出来ました。ワークライフバランスの取れたゼミでしたので、勉強以外にも国内外の学会への参加や社会人交流、ゼミ生との様々なパーティーなど充実した学生生活を送りました。以前は修士論文は頑張れば一人で書けるものだと思いましたが、実際はテーマ設定からデータ分析まで先生との二人三脚による製作が重要なプロセスでありました。先生のサポートと協力者の力をお借りして、多言語の相関関係を示すことが出来たことは私の自信になっています。お陰様で卒業式では謝辞の大役を担うことが出来たことは一生の思い出です。修士課程修了後、主人と一般社団法人を設立し、語学レッスンから地域資源を活用したインバウンドサービスまで外国人だから出来る事業を展開しています。先日は、岐阜県の「岐阜県で活躍する女性」として選出頂きました。いつも黒板の前で教鞭を振るう先生の姿を思い出しながら、私も同じようになれるよう事業に励んでいます。在学の二年間、社会言語科学から森林生態学まで幅広い分野の授業を選択しましたが、今振り返ると、関係がない分野でも社会人生活のどこかに役立つことが多々あります。全てが余す事なく人生の一部になっている感覚、これが一生の財産というものかもしれません。在学中の皆さん、ぜひ学生でしか体験できない楽しさを存分に味わってくださいね。



# 地域科学部の活動と成果

## 地域資料・情報センター

URL <http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>

当センターでは、年1回のニュースレター・教育学部郷土博物館所蔵資料目録の発行の他、ウェブサイトで、岐阜県のトピックスや、寄贈頂いた書籍等の紹介、河口堰資料の公開を行っています。

平成の大合併前の旧自治体の自治体史を収集することができ、当時100近くあった市町村のほぼ95%程度を網羅することができました。これには自治体史のみならず、古くは明治時代のもの、ガリ版刷りのもの等、貴重な物もあります。一方で、現代資料として、継続的に続く作業ではありますが、各自治体の各種計画の電子保存も行いました。各方面からの寄贈資料・以前からの長良川河口堰関連の裁判資料等の整理を進めています。中には当センターにしかない資料もあり、引き続き整理公開を進めています。



旧自治体別に整理された岐阜県自治体史

## 岐阜大学公開講座（地域科学部企画）



地域科学部では高校生以上の一般の方を対象に公開講座を毎年開催しています。

2019年度は「地域科学部の授業Ⅲ」をテーマとして、3日間でのべ92名にご参加いただきました。参加者からは、「この講座は知的好奇心を持つ事が出来楽しみです。来年以降も続けてください」、「学問への情熱が込められた講義が面白かったです」等、好評を博しました。

2020年度も地域科学部の多様な講義を体験できる公開講座を開催します(予定)。中国文学、化学、心理行動学、国際経済学、行政法、哲学と、幅広い専門分野の講師による講義を予定しています。

## 高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象になることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、地域科学部が主体となって、地元自治体や高校と「街なかオープンカレッジ」を岐阜県各地で開催してきました。

2018年は8月に岐阜市のメディアコスモス、10月に中津川市で行いました。実際に地域で活躍する団体の職員などの講義を受け、フィールドワークやワークショップを行いました。まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。



# 教員一覧

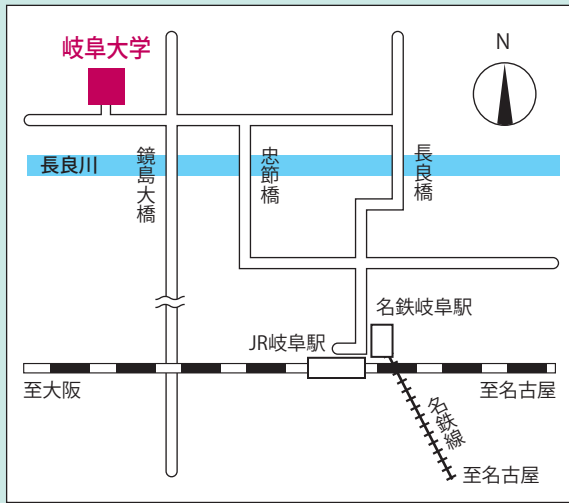
(2020年6月1日現在)

学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード	
地域政策	地域政策	教授	富樫 幸一(経済地理学)	人文地理学、地域経済の分析、産業調査、まちづくり	
			三井 栄(計量経済学)	計量経済分析、時系列分析、数理ファイナンス、経済シミュレーション	
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR	
			三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟	
			山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性	
			立石 直子(民法学)	家族生活と法、子どもの人権、ジェンダー法、法と心理の協働	
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化	
		宇山 翠(経済学)	産業集積、中小企業、産業発展、企業間関係、下請、地域		
	助教	小牧 亮也(憲法学)	民営化、憲法の適用範囲、憲法規範の実現、公共性		
	地域環境	教授	肥後 陸輝(森林生態学)	環境保全、里山、湿地、多様性	
			和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィクス、化学反応制御、溶液内の化学反応	
			應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題	
		准教授	合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価	
			向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析	
			橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応	
			神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学	
		助教	十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS	
		助教	中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果	
		地域文化	地域文化	教授	林 正子(日本近代文学)
松尾 幸忠(中国古典文学)					中国文化論、詩跡(歌枕)研究
稲生 勝(科学哲学)	環境問題、科学・技術と社会の関係、自然観、ヘーゲル、歴史における自然科学				
内海 智仁(アイルランド文学)	小説論、アイルランド、モダニズム				
内田 勝(18世紀英文学)	文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語				
洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会				
橋本永貢子(現代中国語学)	日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能				
牧 秀樹(言語学)	生成文法				
准教授	ゲラン,ジル(フランス語)			フランス語	
	フランクシュタイン,アレクサンドラ(ドイツ語)			ドイツ語	
助教	笠井 千勢(英語教育学)		第二言語習得論		
地域構造	助教		柴田 和宏(哲学史)	西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史	
			平川 和(現代アメリカ文学)	SF,消費文化,小説・映画比較研究	
	教授		ラッセル,ジョン・ゴードン(文化人類学)	内なる多様性、創造、想像、鏡としての他者、ボーダレス社会、異文化交流	
			野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現	
	准教授		伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力	
			南出 吉祥(生活指導論)	教育・福祉・労働、若者の自立、居場所、支援、貧困	
	講師		加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会	
	助教		堀江 未央(文化人類学、地域研究)	家族、ジェンダー、移動、西南中国、少数民族	
			芹口真結子(歴史学)	日本近世史、近世宗教史、仏教教団と幕藩権力、民衆教化	

地域科学部の活動と成果

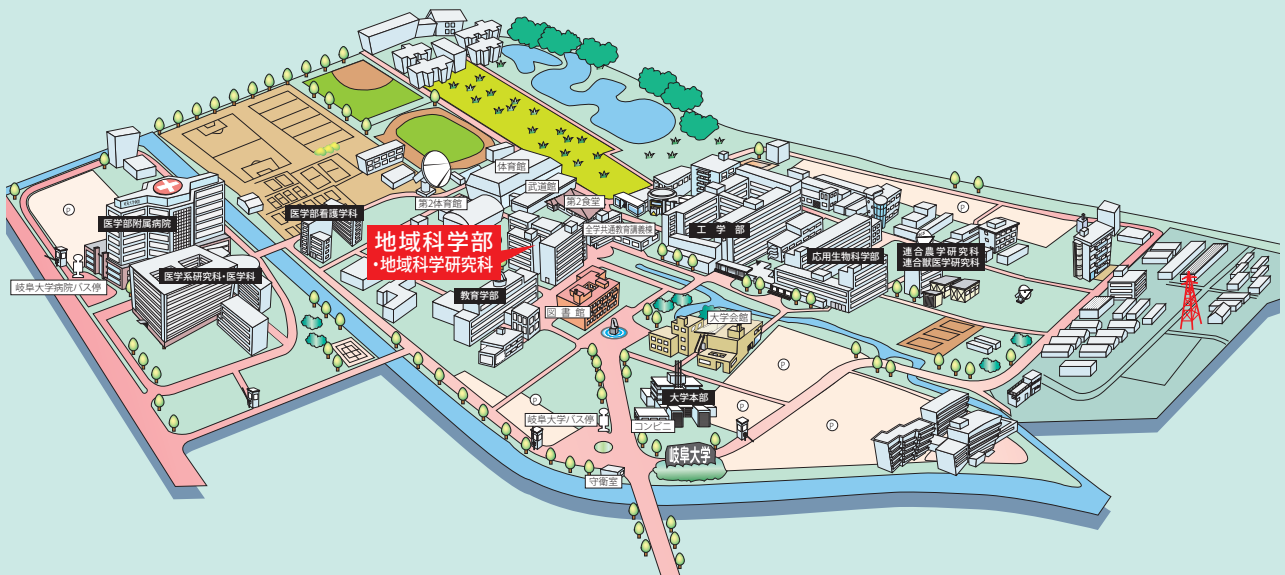


# Information



## ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、  
JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから  
岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分  
(JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、  
5番のりば及びバスターミナルEのりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分



お問合せ先

## 岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3009(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/>